(Eds.), The Great Ape Societies, Cambridge University Press, Cambridge, pp.135-145.

－和文－

1）小川秀司（1996）ニホンザル嵐山F群における養子取りによる双子と母親の社会交渉. 霊長類研究 12(1):1-10.

総説

－英文－

1）Suzuki, A. (1997) Life in the woods. Oxford Authors 11:1-8. Oxford University Press, Oxford.

書籍

－和文－

1）加納隆至（1996）森を語る男 東京大学出版（東京）

報告・その他

－英文－

1）Kano, T., Lingome, B., Idani, G. & Hashimoto, C. (1996) The challenge of Wamba. In Paola Cavalieri (Ed.), The Great Ape Project, Ecta & Animali 96/8, pp.68-74. Milano.

2）Suzuki, A. (1997) Kelai[2] hydroelectric power project, Progress Report, No.1. JICA.

学会発表等

－英文－

1）Idani, G., Hashimoto, C. & Tashiro, Y. (1996) Seasonality of food items and ranging patterns of bonobos at Wamba, Zaire. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.433.

2）Ohsawa,H. (1996) Social dynamics of patas monkeys with special reference to male changes. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.591.

3）Ohsawa,H. (1996) Population dynamics of Japanese monkeys at Takasakiyama: Trends after 1985. Intl. Symp. Evol. Asi. Prim. (Aug. 1996, Inuyama) Abstracts p.49.

4）Tashiro,Y. & Hirata,S. (1996) Social role of alpha-female to decide male rank in Japanese monkey group. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.513.

－和文－

1）船越美穂・常田英二（1996）志賀A群の繁殖特性. 第2回野生動物保護学会（1996年10月, 北海道）講演要旨集 p.34.

2）伊谷原一・小川秀司（1996）乾燥疎開林におけるチンパンジーの生息地利用Ⅰ:泊まり場. 第12回日本霊長類学会（1996年6月, 大阪）. 霊長類研究 12(3):282.

3）小川秀司・伊谷原一（1996）乾燥疎開林におけるチンパンジーの生息地利用Ⅱ:乾季の食性. 第12回日本霊長類学会（1996年6月, 大阪）. 霊長類研究 12(3):282.

行動神経研究部門

思考言語分野

松沢哲郎・友永雅己

研究概要

A）チンパンジーの認知・言語機能の比較認知科学的研究

松沢哲郎・友永雅己・佐藤明[1]・水谷俊明[1]
平田聡[1]・南雲純治[4]

チンパンジーとヒトを対象に、認知・言語機能の比較研究を継続しておこなった。主として1個体のテスト場面で、色や数の認識とその記憶の減衰、図形パターンや表情の認知、一体性の知覚、刺激等価性、難易度の異なる課題間の選択行動、トークンの使用、コンピュータ補助のなぐりがき、匂いと味を手がかりとした弁別学習、同時レバー押し課題などについて実験的分析をおこなった。この研究テーマの一部は、藤田和生（京大文学部）、金沢創（京大文学部・学振特別研究員）、鈴木修司（北大文学部院生）、上野吉一（北大実験生物センター）、イバー・イバーセン（ノースフロリダ大学）、ドラ・ビロ（オックスフォード大学）との共同研究である。

B）対面場面におけるチンパンジーの知性

松沢哲郎

プレイルームでチンパンジーと実験者が対面する場面において、動作模倣や粘土造形にかんする実験をおこなった。中川織江（日本女子大学）、明和政子（京大教育学部院生）との共同研究である。

C）社会的場面におけるチンパンジーの知性

松沢哲郎・友永雅己・外岡利佳子[2]
平田聡[1]・南雲純治[4]

1群11個体の社会的なまとまりをもったチンパンジー集団を対象として、道具使用の社会的場面における発現と伝播の過程の分析、採食の競合場面における社会交渉の実験的分析をおこなった。その一部はドラ・ビロ（オックスフォード大学）との共同研究である。

D）野生チンパンジーの道具使用と文化的変異

松沢哲郎・井上(中村)徳子[3]・平田聡[1]

西アフリカのボッソウのチンパンジーの行動と生態を、冬の時期に現地調査した。生業に関わらないタイプの新しい道具使用（葉のざぶとん使用）を発見し、道具使用の発達にかんする野外実験をおこなった。その一部は明和政子（京大教育学部院生）との共同研究である。

E）飼育霊長類の環境エンリッチメント

松沢哲郎・熊崎清則[5]・前田典彦[5]・柳原芳美[6]

飼育霊長類の環境エンリッチメントにかんする研究をおこなった。一環としての植樹プログラムを日本モンキーセンターでも実施した。運動場における3次元の構築物に加え、石・砂・土など地表面の構成についても利用頻度の相違の調査をおこなった。その一部は落合知美（岐阜大農学部院生）との共同研究である。

F）視覚探索を用いたチンパンジーの知覚・認知機能の分析

友永雅己

視覚探索課題を用いて、チンパンジーの知覚・認知機能について検討を行った。視覚探索における正負のプライミング効果、顔の向きに関する視覚探索における顔検出効果、顔と非顔刺激を用いた視覚探索における倒立呈示の効果、チンパンジーの四足歩行を光点表示あるいは線分表示した動画像とランダムな動きとの間の弁別(バイオロジカルモーションの知覚)などについて実験的分析を行った。

G）飼育チンパンジー集団における道具使用行動の獲得と伝播

外岡利佳子[2]・友永雅己・松沢哲郎

飼育チンパンジー集団を対象に人工うろでのジュース飲みにおける道具使用行動の獲得と伝播について検討した。特に植樹後の利用可能樹種の変化の影響を調べた。

H）野生チンパンジーにおける道具使用の発達

井上（中村）徳子[3]・松沢哲郎

西アフリカ、ボッソウのチンパンジー乳幼児3個体を対象として、ヤシの種子割り行動の獲得に関する発達過程を分析した。

I）霊長類における自己鏡映像認知

井上（中村）徳子[3]

ヒトを含む霊長類13種（原猿1種、新世界ザル3種、旧世界ザル3種、小型類人猿1種、大型類人猿4種、ヒト）を対象として、自己鏡映像認知に関する実験をおこなった。

論文

－英文－

1）Iversen, I. & Matsuzawa, T. (1996) Visually guided drawing in the chimpanzee (*Pan troglodytes*). Jpn. Psychol. Res. 38:126-135.

－和文－

1）井上徳子、外岡利佳子、松沢哲郎（1996）チンパンジー乳児におけるヤシの種子割り行動の発達．発達心理学研究 7:148-158.

1）大学院生　2）学振特別研究員　3）COE非常勤研究員　4）認知学習分野技官　5）サル類保健管理施設技官　6）技能補佐員

総説

－英文－

1）Matsuzawa, T., Kojima, S., & Jitsumori, M. (1996) Editorial: A brief note on the historical background of the study of cognition and behavior in nonhuman primates by Japanese researchers. Jpn. Psychol. Res. 38:109-112.

2）Matsuzawa, T. (1996) Chimpanzee intelligence in nature and captivity: isomorphism of symbol-use and tool-use in chimpanzees. In: McGrew,W. et al. (eds.), Great Ape Societies. Cambridge Univ. Press, pp.196-209.

－和文－

1）松沢哲郎 (1996)「心の理論」を考える. 発達 66:67-74.

2）松沢哲郎 (1996) チンパンジーの知性と文化. 発達 68:106-112.

3）友永雅己 (1995) チンパンジーにおける形の知覚. 心理学評論 38:606-634.

4）友永雅己 (1996) 霊長類とのコミュニケーション ―チンパンジーでの研究を中心に―. バイオメカニズム学会誌 20:162-170.

報告・その他

－英文－

1）Tomonaga, M. (1996) Visual perception in chimpanzees (*Pan troglodytes*): Texture segregation and perception of shape from shading. Annual Report of Grant-in-Aid for Scientific Research Ministry of Education, Science, Sports, and Culture "The emergence of human cognition and language", vol. 3, pp.89-98.

－和文－

1）松沢哲郎 (1996) 進化の隣人・チンパンジー (1)：ちんぱんじん. モンキー 40(267):11-16.

2）松沢哲郎 (1996) 進化の隣人・チンパンジー (2)：チンパンジーのくらしと勉強. モンキー 40(268):18-22.

3）松沢哲郎 (1996) 進化の隣人・チンパンジー (3)：野生チンパンジーの調査. モンキー 40(269):12-16.

4）松沢哲郎 (1996) 進化の隣人・チンパンジー (4)：野生チンパンジーの道具と文化. モンキー 40(270･271):20-24.

5）松沢哲郎 (1996) 進化の隣人・チンパンジー (5)：チンパンジーのくらしを考える. モンキー 40(272):16-19.

6）松沢哲郎 (1996) 教育の四つの場所 発達, 67:104-111.

7）松沢哲郎 (1997) チンパンジーノート・一九九六年. 発達 69:105-112.

学会発表等

－英文－

1）Greene, H., & Tomonaga, M. (1996) Perception. Symposium of 1996 meeting of the Southern Society for Philosophy and Psychology, "Overview of (primate) cognition" (Apr. 1996, Nashville, TN, USA).

2）Inoue-Nakamura, N. (1996) Self-directed behaviors in chimpanzees. Workshop "What is evidence for mirror- or video-self-recognition." The XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA).

3）Inoue-Nakamura, N. (1996) Mirror self-recognition in primates: A phylogenetic approach. XXVI Intl. Congr. Psychol. (Aug. 1996, Montreal, Canada). Intl. J. Psychol. 31(3-4):342.

4）Inoue-Nakamura, N. & Matsuzawa, T. (1996) Development of stone tool-use by wild chimpanzees. The XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstract no.312.

5）Matsuzawa, T. (1996) Phylogeny of intelligence: A view from cognitive behavior of chimpanzees. The 3rd Brain and Mind International Symposium "Concept formation, thinking, and their development" (May-June, 1996, Kyoto, Japan).

6) Matsuzawa, T. (1996) Field experiments on tool use and its social transmission by wild chimpanzees. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstract no.617.
7) Matsuzawa, T. (1996) Two behavioral standards to promote psychological well-being of captive chimpanzees. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA).
8) Matsuzawa, T. (1996) Chimpanzee intelligence in the laboratory and in the wild. The 32nd Nobel Conference "Apes at the end of an age: Primate language and behavior in the 90s" (Oct. 1996, Minnesota, USA).
9) Matsuzawa, T. (1996) Evolution of intelligence: A view from linguistic and cognitive functions of chimpanzees. International workshop of Kansai Advanced Research Center "Brain, computers, and evolution" (Dec. 1996, Kobe, Japan).
10) Tomonaga, M. (1996) Visual perception in chimpanzees (*Pan troglodytes*) under the texture segregation and visual search tasks. XVIth Congress Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.336.
11) Tomonaga, M. (1996) Perception of shape from shading in chimpanzees (*Pan troglodytes*) and humans (*Homo sapiens*). XXVI Intl. Congr. Psychol.(Aug. 1996, Montreal, Canada). Intl. J. Psychol. 31(3-4):197.
12) Tomonaga, M. (1996) Perception of shape from shading in chimpanzees and humans. International symposium "The emergence of human cognition and language" (Sep. 1996, Tokyo, Japan).
13) Tomonaga, M. & Fushimi, T. (1996) Object construction by the chimpanzee (*Pan troglodytes*) under the conditional discrimination procedure: Emergence of derived stimulus relations. Third international congress on behaviorism and the science of behavior (Oct. 1996, Yokohama, Japan).
14) Tonooka, R. (1996) Leaf selectivity and development in leaf-folding behavior by wild chimpanzees at Bossou. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.593.
15) Satoh, A., Kanazawa, S., & Fujita, K. (1996) Perception of object unity in a chimpanzee. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.338.

－和文－

1) 平田聡・ドラ＝ビロ・松沢哲郎 (1996) 限られた食物資源をめぐるチンパンジー間の社会交渉.日本動物行動学会第15回大会 (1996年11月, 東京). 要旨集 p.46.
2) 井上 (中村) 徳子 (1997) アフリカ (マノン族) のヒト乳幼児における自己鏡映像認知の発達. 日本発達心理学会第8回大会 (1997年3月, 吹田).
3) 松沢哲郎 (1996) 21世紀の学校教育に求められるもの. 日本教育大学協会全国家庭科部門全国大会 (1996年8月, 岐阜).
4) 松沢哲郎 (1996) チンパンジーの心. 中山科学振興財団創立5周年記念公開シンポジウム「類人猿にみる人間」(1996年9月, 東京).
5) 松沢哲郎 (1996) チンパンジーの石器使用と知能・心性. 香芝市二上山博物館第10回特別展「人類の起源とサヌカイトーサルの文化・ヒトの文化－」記念シンポジウム「サルの文化とヒトの文化－人間とはなにか－」(1996年10月, 香芝).
6) 松沢哲郎 (1996) チンパンジーの心. 第11回「大学と科学」公開シンポジウム「認知・言語の成立：人間の心の発達」(1996年10月, 東京).
7) 松沢哲郎 (1996) 比較行動学の立場から. 文部省重点領域研究シンポジウム「認知発達研究の言語・文化間比較」(1997年2月, 東京).
8) 松沢哲郎・山越言・タチアナ・ハムル (1996) 野生チンパンジーの道具使用の新たな発

見：水藻すくい．第12回日本霊長類学会大会（1996年6月，吹田）．霊長類研究 12:283.
9）水谷俊明・鈴木修司・松沢哲郎（1996）チンパンジーにおけるトークン使用 ― 予備訓練 ―．動物心理学会第56回大会（1996年4月，東京）．動物心理学研究 46:111.
10）水谷俊明（1996）テナガザルのデュエットの個体発生起源．第12回日本霊長類学会大会（1996年6月，吹田）．霊長類研究 12:290.
11）明和政子・橋彌和秀（1996）．チンパンジー乳児におけるリーチング行動の発達．第12回日本霊長類学会大会（1996年6月，吹田）．霊長類研究 12:295.
12）明和政子・松沢哲郎（1997）チンパンジーにおける物の操作に関する模倣．日本発達心理学会第8回大会（1997年3月，吹田）．発表論文集 p.266.
13）友永雅己（1996）チンパンジーにおけるテクスチャ弁別．日本動物心理学会第56回大会（1996年4月，東京）．動物心理学研究 46:110.
14）友永雅己（1996）チンパンジーによる弁別行動の獲得・維持・逆転に及ぼす言語賞賛の効果．第12回日本霊長類学会大会（1996年6月，吹田）．霊長類研究 12:292.
15）友永雅己（1996）チンパンジーにおける陰影による形状(shape from shading)の知覚 ―視覚探索とテクスチャ弁別による検討―．日本心理学会第60回大会（1996年9月，東京）．発表論文集 p.561.
16）友永雅己（1997）チンパンジーにおける視覚探索 ―線分、顔、生体運動―．文部省科研費重点領域「認知・言語」平成8年度研究成果発表会（1997年1月，東京）．
17）友永雅己（1997）チンパンジーにおける視知覚認知：視覚探索課題を用いて．東京工業大学グループ研究「感覚知覚の基礎と応用」シンポジウム（1997年3月，東京）．
18）外岡利佳子・友永雅己・松沢哲郎（1996）飼育チンパンジーのジュース飲みのための道具使用の獲得．第12回日本霊長類学会大会（1996年6月，吹田）．霊長類研究 12:291.
19）外岡利佳子・友永雅己・松沢哲郎（1996）チンパンジーのジュース飲み行動における道具使用の獲得と伝播．日本心理学会第60回大会（1996年9月，東京）．発表論文集 p.768.
20）佐藤　明（1996）チンパンジーにおける物体の一体性知覚．動物心理学会第56回大会 1996年4月，東京）．動物心理学研究 46:109.
21）鈴木修司（1996）チンパンジーにおける弁別課題間の選択行動．日本動物心理学会第56回大会（1996年4月，東京）．動物心理学研究 46:92.
22）鈴木修司（1996）弁別課題の構造と選択行動．日本心理学会第60回大会（1996年9月，東京）．発表論文集 p.767.
23）鈴木修司・水谷俊明・松沢哲郎（1996）チンパンジーによるトークンの弁別と保持．第12回日本霊長類学会大会（1996年6月，吹田）．霊長類研究 12:291.

認知学習分野

小嶋祥三・正高信男・中村克樹・南雲純治[1)]

研究概要

A）霊長類の聴覚と音声に関する研究

小嶋祥三

これまで行ってきたニホンザル、チンパンジーの聴覚と音声に関する研究のとりまとめを行っている。

B）老齢ザルの認知機能に関する研究

小嶋祥三・中村克樹

老齢ニホンザルの認知機能の老化をGO/NOGO物体弁別、複式物体弁別学習により検討している。

C）霊長類のコミュニケーションの比較行動学的研究

正高信男

ヒトを含む様々な種の音声、視覚コミュニケーションの比較研究を行っている。

D）PETを用いたヒトの認知機能地図の作成

中村克樹・小嶋祥三・南雲純治

認知課題遂行中の局所脳血流量をPET（ポジトロン・エミッション・トモグラフィー）を用いて計測し、ヒトの高次認知機能分布を調べている。本研究は東北大学加齢医学研究所および国立長寿